

## 多摩・羽村の自由民権運動

多摩地区は、明治初期に起こった自由民権運動がとても盛んな地域でした。何となれば、その第一の理由は、養蚕の発達でしょう。幕末、日本が開国した当時、ヨーロッパを中心に蚕の病気（微粒子病）が蔓延しており、世界的な生糸不足。そのため、日本全国で養蚕が盛んになり、その中に羽村もあって、先進技術ももつ地域だったことは「たまに」250号でも触れました。

その生糸は、輸出品ですからこの地域では、横浜から欧米に輸出されます。八王子からの「絹の道」は有名ですね。その道を逆にたどるように、欧米の啓蒙思想が、広がります。土族民権を引き継いだ都市民権の主体となった「新聞」の読者も養蚕などを行う「豪農」たちで、「豪農民権」とも言われます。

多摩地区で言えば、町田や八王子がその中心で、民権家、民権結社などが活躍して、演説会なども開かれています。五日市では、その力が「五日市憲法」（国会期成同盟の「憲法づくり」運動の中で作られた私擬憲法、しっかりした人権規定があることで、ほとんどの中学校歴史の教科書にも取り上げられている）にもつながりました。

また、多摩は江戸に近く、幕領・旗本領で、大名領（藩）はなく、その意味でも幕府に近く「反薩長」の機運もあったようです（だから新選組も）。



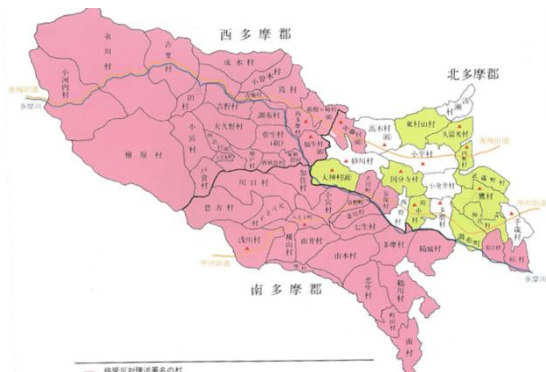
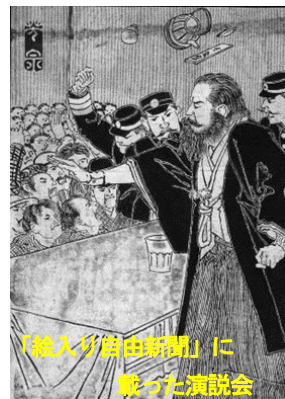
ところで、自由民権の要求の一つは「条約改正」、多摩で言えば、横浜に持っていった生糸をイギリス商人に買いたたかれるのが不満だったのです（商権回復運動）。自由民権運動は、生まれつつあった「ブルジョワジー」の権利を求める運動でもあったのです。

当然、その動きは羽村にもやってきます。1894（明治27）年、羽村の名士（養蚕農家など）が、禅林寺に「豊穰碑」（←写真）を建立します。

これは、1784（天明

4）年に羽村から起こった天明の一揆を義挙とし、獄死した九士を義民として顕彰するもので、民権期に各地で見られた義民顕彰運動の一つです。

と同時に、この碑を建てた人たちは、多摩東京府移管（神奈川県だった多摩地区を東京府に移管する法案が1893に成立する）反対運動を展開していました。横浜とのつながり、神奈川自由党とのつながりを大事にしようとしたのです。



地図で赤い町村は、町をあげて東京府移管反対を